

SHIP通信

県立麻生養護学校
支援連携グループ

No.1

令和2年6月 発行

地域支援センターSHIPです！



SHIP通信は、『地域支援センターSHIP』の事業に関するニュースを中心に掲載しています。『地域支援センターSHIP』は、麻生養護学校の「相談・地域連携担当」「移行支援担当」「自立活動教諭（理学療法士・作業療法士）」の教員で構成されています。特別支援学校の専門性を生かし、さまざまな事業を通して地域の子ども、保護者、先生たちを支援します。子どもたちが安心して自分らしくいきいきと過ごせるように、保護者や地域の方々と共にサポートしていきます。

「地域資源を使いたい」「気になる行動があるけど、どうしたら良いかわからない」「進路はどのように進んでいくのか」など、疑問や要望はありませんか？そんなときは相談・地域連携係、移行支援係がチームでニーズにお応えします！気軽にご相談下さい。まずは担任までお知らせ下さい。

★「SHIP」の名称の由来★

笑顔（Smile）希望（Hope）関わり（Interaction）を、支援の必要な子どもたちへ（For People with special needs）という思いを込めています。子どもたちが自信をもって社会の大海原へ出て行くことができるように支援します。

相談・地域連携担当から



業務は「教育相談」と「公開講座・研修会の実施」「ネットワークづくり」の三つに分かれています。

教育相談

多様な教育的ニーズに応えるため、相談・地域連携担当が窓口となり、校内や地域の支援機関と連携してサポートを行います。本校には自立活動教諭（理学療法士、作業療法士）が配置されており、各専門の相談もお受けします。また、言語聴覚士（ST）、臨床心理士（PT）が配置された他の学校も校内外の相談に応じていますので、まずは麻生養護学校SHIPにお問い合わせください。

保護者相談

校内および地域の保護者の方の相談に応じます。必要に応じて支援機関の情報提供等も行います。

保育園・幼稚園・学校への支援

地域の支援の必要な子どもたちの支援を行います。幼児・児童・生徒が主体性を持って活動に参加できるように先生たちと一緒に考えます。

幼児・児童・生徒の姿勢・動作など身体に関する支援を行います。

理学療法士

森田 千佳子

麻生養護学校



相談・地域連携担当
山本 里紗 ・ 金子 麻衣子

幼児・児童・生徒の学習や生活、遊びなどの様々な活動に関する支援を行います。

作業療法士

芝崎 律子

公開講座・研修会の実施

教職員、保護者、関係機関職員を対象に、特別支援教育に関する講座・研修会を実施して、特別支援教育の理解推進を図ります。

ネットワークづくり

地域と連携する学校の窓口のひとつとして、様々な役割を担っています。

協議会への参加

自立支援協議会など、地域の協議会・連絡会に参加しています。

地域連携

放課後支援事業所(放課後等デイサービス事業所)等や福祉機関・医療機関と連携しています。

情報コーナーの設置

図書コーナーに放課後等デイサービス事業所等のパンフレットやチラシなどが置いてあります。カウンター横ラック近くには保護者向け研修会のお知らせなどを掲示しています。



移行支援担当から



今年度の移行支援担当は本校が江頭史朗、泰謙二郎、堀井水香、分教室は宮川由利、池井麻央が担当です。主に高等部の担任と協力して、生徒の進路学習や実習等の移行支援を進めていくことが主な仕事です。

本校には川崎市在住の方と横浜市在住の方が在籍していますので、それぞれの行政の状況や情報を丁寧に伝えることを心がけています。麻生養護学校のある地域(川崎市北部、横浜市北部)は市内の他の地域と比べても新規事業所が少なく、また既存の事業所も定員を満たしているところが多い地域であり、新たな利用は厳しい状況が数年続いております。そのような状況ではありますが、生徒本人の実態に合わせた進路選択ができるように、相談して進めていきます。

今年度は新型コロナウイルスの影響で例年前期に行っていた説明会や見学会等も中止になっております。2学期以降で今後の状況によりますが、説明会や学習会など実施していきたいと考えております。決まりましたら改めてご案内しますので、ぜひご参加ください。またPTAの進路対策委員の方と協力しての企業・施設見学会(全校保護者対象)も2学期以降に実施予定ですのでこちらにもぜひご参加ください。

今回は卒業後の進路について図で説明します。麻生養護学校の卒業後の進路で多いのは、大きく分けて2つあります。1つが「**企業就労**」。2つ目が「**福祉施設への通所**」です。麻生養護学校の卒業生は本校については2つ目の「福祉施設への通所」が多く、分教室は年度によりますが4割から5割ほどが「企業就労」、残りが「福祉施設への通所」となっています。(※大学や専門学校への進学やそれ以外の進路の可能性もありますが、ここでは2つ書かせていただきます)

企業就労も学校卒業後にすぐ就労の場合もありますし、福祉施設や能力開発校などの訓練校を経て就労するなど、いくつかのパターンがあります。

